

平成 18 年 3 月 22 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ホ ロ ン
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 富 加 津 好 夫
 (J A S D A Q ・ コ ー ド 7 7 4 8)
 (U R L <http://www.holon-ltd.co.jp/>)
 問 い 合 わ せ 先 取 締 役 総 務 部 長 川 崎 成 二
 電 話 0 3 (3 3 4 1) 6 4 3 1 (代 表)

平成 18 年 3 月期通期業績予想修正に関するお知らせ

平成 18 年 2 月 3 日に発表しました平成 18 年 3 月期(平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)の通期の業績予想数値を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 18 年 3 月期通期業績予想数値の修正(平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	1,400	16	16
今回修正予想(B)	920	170	290
増減額(B-A)	480	186	274
増減率	34.3%		
(ご参考)			
前期実績(平成 17 年 3 月期通期)	2,250	527	334

2. 業績予想数値の修正理由

当社は、当期において競合企業の参入によりこれまでより厳しい事業環境になるものと認識し、新技術・新製品の開発に取り組んでまいりました。具体的には、新製品 EMU270 を開発し当社にとって最重要と考えていた技術課題も克服してきました。しかし、これら事業環境の変化は当社の予測の範囲を超えて進行し、それに対する当社の対応は結果として不十分でありました。当期において計画していた商談の一部を得ることが出来ず当社の売上高及び利益は前期と比較して大幅に低下し、資本市場からの信任を大きく損なうことになりました。

当社といたしましては、このような結果を真摯に受け止め、再び成長軌道に戻すべく役職員が収益力強化に向けて全力で取り組み、来期以降企業価値の回復を図り、投資家をはじめ

とするステークホルダーの方々の信頼回復に努めていく所存です。

通期業績の予想数値に関しまして、予定していた商談がまとまらない見込みとなったため、売上、損益ともに大幅な減額修正となり、売上高 920 百万円、経常損失 170 百万円、当期純損失 290 百万円の見込みに修正させて頂きました。

現段階におきましては、決算確定作業中であり、詳細な決算数値の確定は決算発表時（本年 5 月初旬を予定）とさせて頂きたく予定です。

（１） 当社の現状認識と対応

当社は、昨年発売いたしました EMU 270 において、技術面で最重要と考えていた技術課題を克服致しましたが、一部技術面で競合先から劣後していると認識している部分がありました。これについては既に対応あるいは改善に着手しております。

当社の製品性能は、相対的に競合先を上回っているという認識ではありますが、当期中において、当社の努力不足もありお客様に当社の製品の良さを浸透するに至りませんでした。また、個別のお客様で異なる細かなニーズに対し適切に対応出来なかったという反省もありました。当社としては、当社外にも協力を頂く、社内の連携体制を改善する等の手当てを行っております。

（２） 今後の改善施策

今後の具体的な改善施策については、本年 5 月の決算発表並びに具体的な事案が発生した時点で公表させて頂きませんが、以下の施策に取り組んでまいります。

主力製品 EMU の競争力回復

当社の主力製品である EMU については、当期において厳しい競争にさらされたものの上記（１）の通り、既に課題を認識、改善に着手しており、これらを速やかに実行していくことにより競争力を回復してまいります。

新たな製品の早期開発と業績変動の極小化

現在、当社の製品構成は主力製品 EMU に依存しております。また、その 1 台当たりの金額が当社の企業規模に比して大きいため業績を不安定にしており、これを克服することが重要な経営課題と認識しております。従いまして、EMU と並ぶ製品の開発について既にいくつかを検討している段階ではありますが、これを早急に実現化すべく努力してまいります。

業績に対する責任の明確化

当期における、業績結果に対する責任を明確にするため、本年 3 月より業績回復を確認できる時点まで代表取締役の役員報酬を 2 割、常務取締役を 1 割、取締役についても一部報酬をカット致します。

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上